

令和4年度春季特別展

子規の叔父、加藤拓川かとうたくせん

— 外交官から松山市長へ —

令和4年 **4月29日** (金・祝) ~ **6月13日** (月)

休館日 5月10日・17日・24日・31日、6月7日 (いずれも火曜日)

開館時間 午前9時~午後5時 (展示室入場は午後4時30分まで)

※5月1日からは午後6時まで (展示室入場は午後5時30分まで)

会場 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料 個人200円 団体160円 65歳以上100円 高校生以下無料

学芸員によるギャラリートーク・関連講座

《ギャラリートーク》

日時…4月30日(土)、5月4日(水・祝)、6月4日(土)

いずれも午前10時30分から50分程度

会場…3階特別展示室※聴講には観覧券が必要

《関連講座》

演題…「ヨーロッパからの手紙―拓川書簡を読み解く―」

日時…6月12日(日) 午前10時30分から正午まで

会場…1階視聴覚室 ※入場無料

※ギャラリートーク・関連講座は、新型コロナウイルス感染症の状況により、中止もしくは入場制限等の変更を行う場合があります。

松山市立子規記念博物館

TEL089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園 1-30

<https://shiki-museum.com/>

令和4年度春季特別展

子規の叔父、加藤拓川

外交官から松山市長へ

加藤拓川は子規の叔父で、外交官や松山市長として活躍した人物です。

拓川は、松山藩士・儒学者の大原観山の三男として松山に生まれました。父の影響で幼い頃から学問に親しみ、松山屈指の秀才だった拓川は、十六歳で上京して司法省法学校に学び、ここで終生の友となる陸羯南との出会いを果たします。明治十六年、拓川は旧松山藩主家の久松定謨とともにフランスへ渡りますが、これに先立ち、上京を熱望していた甥の子規を東京に呼び寄せ、羯南にも引き合わせました。拓川は、子規のその後の人生の下地を作った上で、海外へ雄飛します。

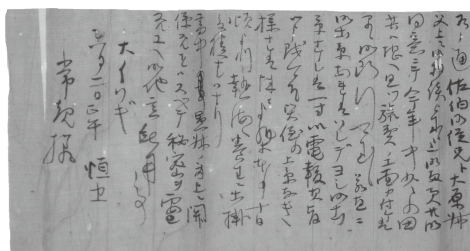
渡仏した拓川は外交官としての第一歩を踏み出し、フランス公使館などに勤務し、松山人として稀有なキャリアを積み重ねていきます。若き日の子規にとって、拓川はまさに憧れの存在でした。また拓川は日本に帰国していた時期には病床の子規を間近で見守り、子規が勤める日本新聞社の社長だった親友の羯南とともに、物心両面で子規を支えました。

子規と羯南の死後、拓川は新聞人に転身し、衆議院議員や貴族院議員を歴任します。また第一次世界大戦後のパリ講和会議に出席し、国際連盟協会の役員となって国際平和のために尽力するなど、拓川は世界的な視野に立って活躍します。最晩年には郷里の人々に推されて松山市長となり、病とたたかしながら市政の課題に取り組みしましたが、拓川のその姿は、闘病の中で文学革新に挑んだ子規にも通じるものがあつたといえます。

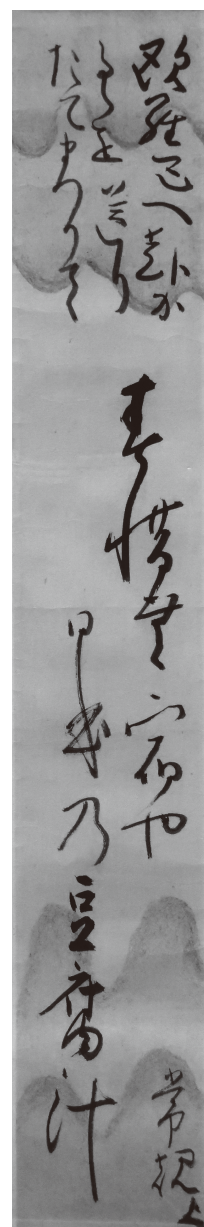
令和四年は、加藤拓川の百年忌の節目にあたります。そこで今回の特別展では、拓川と子規との交流や拓川の業績・人となりにスポットを当て、世界で活躍し歴史にその名を刻んだ加藤拓川の素顔に迫ります。



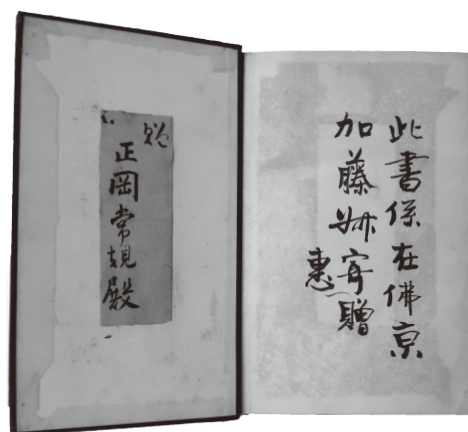
加藤拓川・秋山好古・正岡八重ほか写真 大正7年



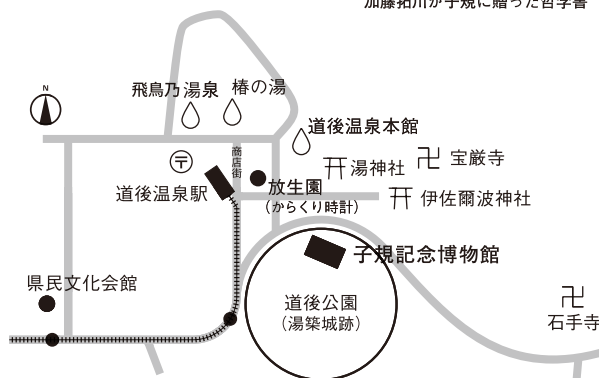
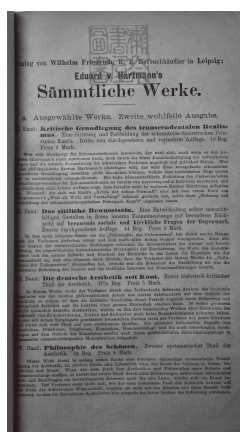
加藤拓川の子規あて書簡 明治16年6月2日



子規句「春惜む宿や日本の豆腐汁」



加藤拓川が子規に贈った哲学書



道後温泉駅より徒歩約5分／道後公園駅より徒歩約5分 ※公共の交通機関をなるべくご利用ください



加藤拓川・陸羯南・国分青尾写真明治16年